

(5) ダム建設後の湛水によるサクラマス産卵床の消失時の影響に係る回答については、平成17年の結果と平成19年、平成20年の結果を比較すると、その影響度合いは大きく異なっている。このため、平成17年以降平成20年までの産卵床調査結果を明らかにするとともに、湛水域における産卵床の消失状況と産卵場の範囲への影響も含め評価し、再度、回答を求めたい。

(5)サクラマス資源への湛水による影響と対策について①



湛水による影響を受ける産卵床の割合。(平成17、19、20年の調査結果より)

- 常時満水位以下の産卵床が影響を受けるとした場合
2% ~ 7%
- 分水施設下流で流入する支川の産卵床も影響を受けるとした場合
12% ~ 14%

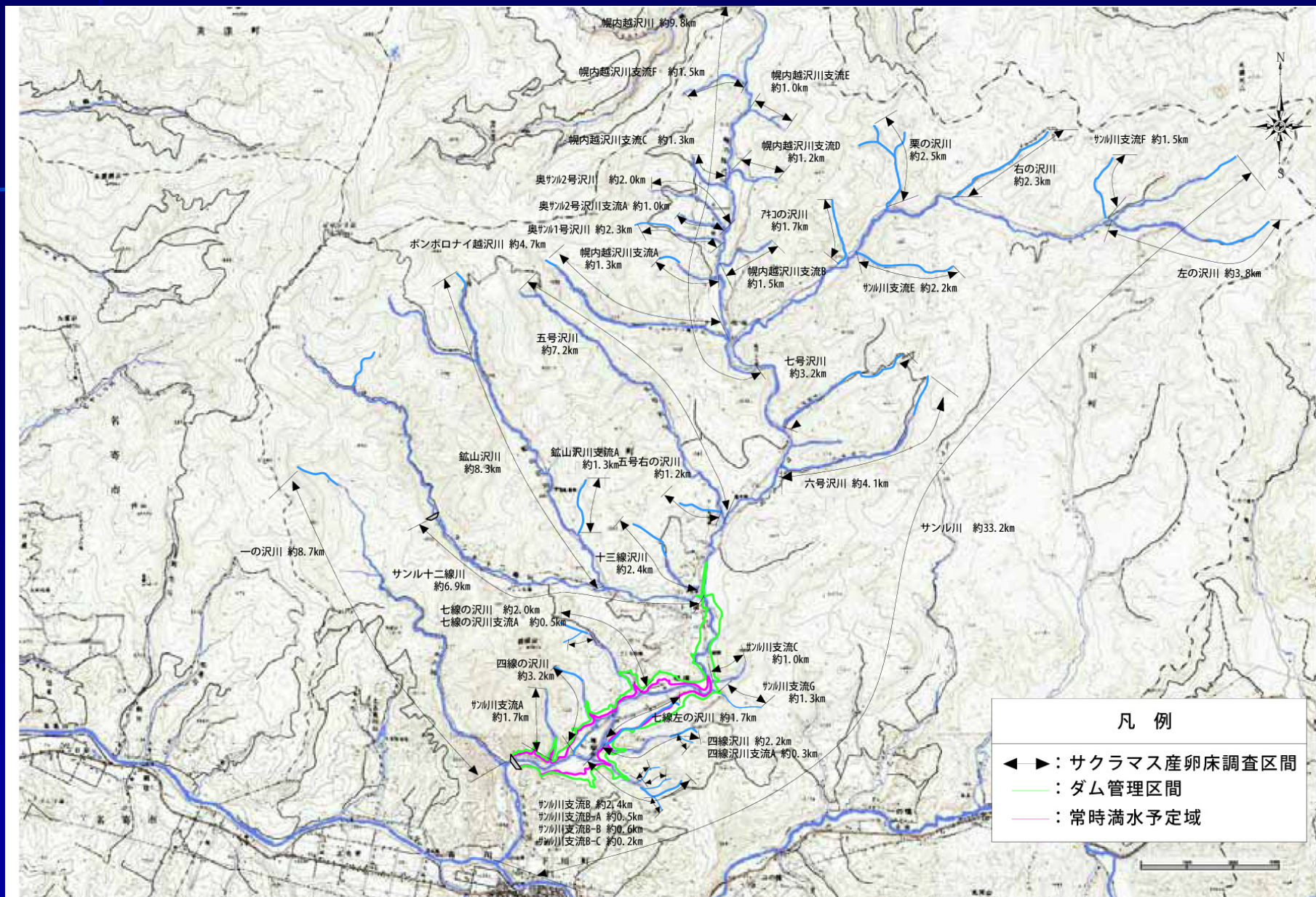
(5) サクラマス資源への湛水による影響と対策について②



●サナル川上流の河川横断工作物について、遡上可能となるよう改善を図り、産卵環境の回復に努めます。

(6) サクラマスの産卵床調査については、調査データの蓄積が重要であると考えるので、今後も継続するべきであると判断されるが、見解を示されたい。

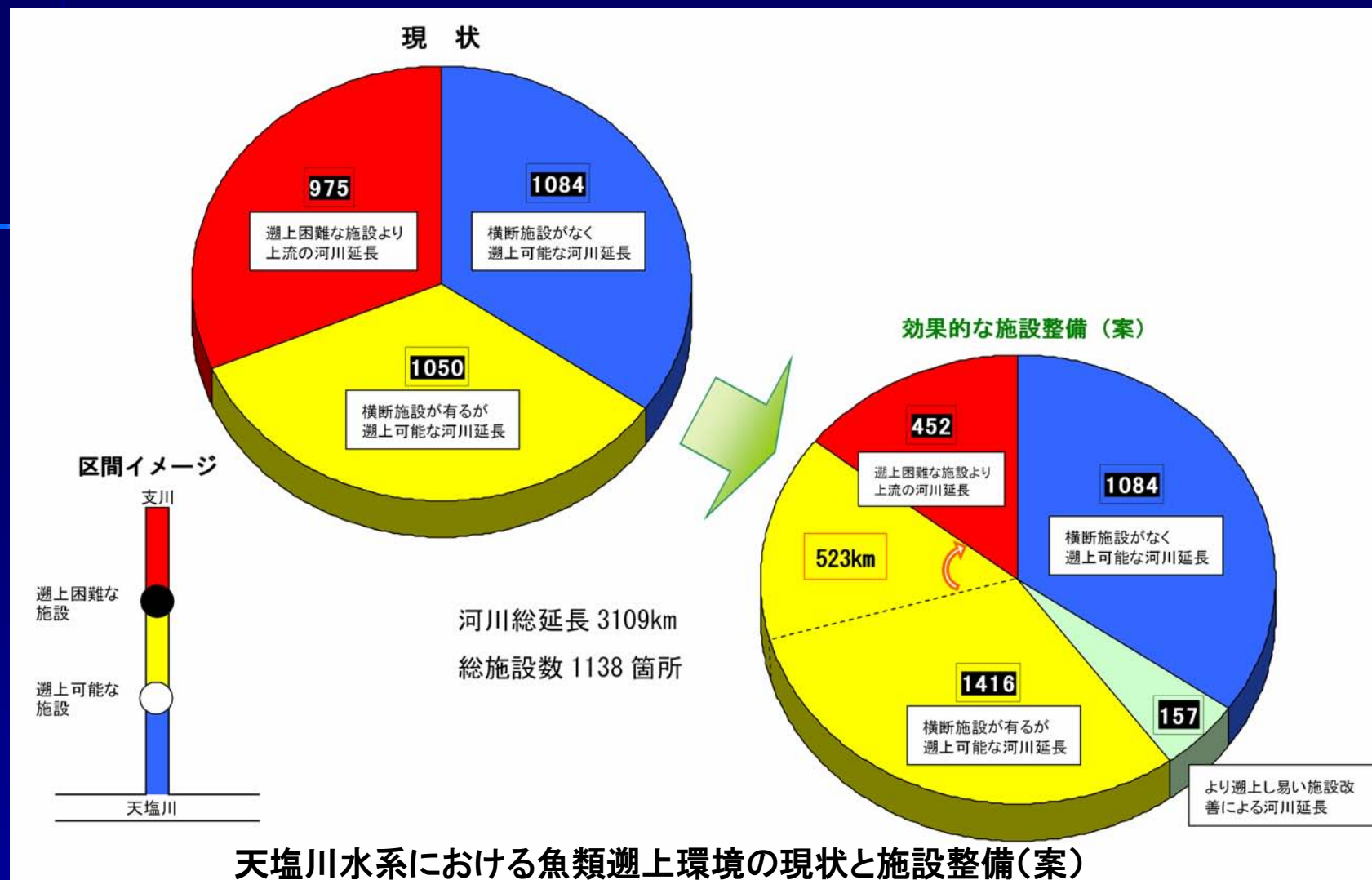
(6) サクラマス産卵床調査について



サル川水系、産卵床調査実施位置図

(7) 天塩川水系(サンル川も含む)におけるサクラマス資源の再生に向けての対策の検討を進めていると推察されるので、その取り組みの考え方と具体的な内容について、示されたい。

(7)天塩川水系における魚類生息環境の保全・改善、連続性の確保について①



- 遡上困難な施設改善111箇所 ⇒ 遡上可能延長523km(円グラフ: 赤色→黄色)
- より遡上し易い施設改善39箇所 ⇒ 遡上可能延長157km (円グラフ: 黄色→緑色)

(7)天塩川水系における魚類生息環境の保全・改善、連続性の確保について②

